

三豊市第2次総合計画 後期基本計画素案について

開催：令和5年10月19日（木）

1. 前期基本計画期間（5年間）のまとめ

【新たな社会情勢・市の現状】

（社会情勢の変動）

■ 経済活動や日常生活におけるSDGs、脱炭素社会等の推進

持続可能な環境・社会づくりに向けての取組が加速化

■ コロナ禍による人と人との交流や経済の停滞

- ・デジタル技術・産業の飛躍的な進歩
- ・ライフスタイルや価値観の大きな変容



アフターコロナ
 …人・モノの動きが流動化、
 一層価値観の多様化が進む

（市の現状）…少子高齢化の進行

資料：総務省統計局HP「平成17年、22年、27年、令和2年国勢調査」、香川県統計調査課HP「人口移動調査」（各年10月1日現在）



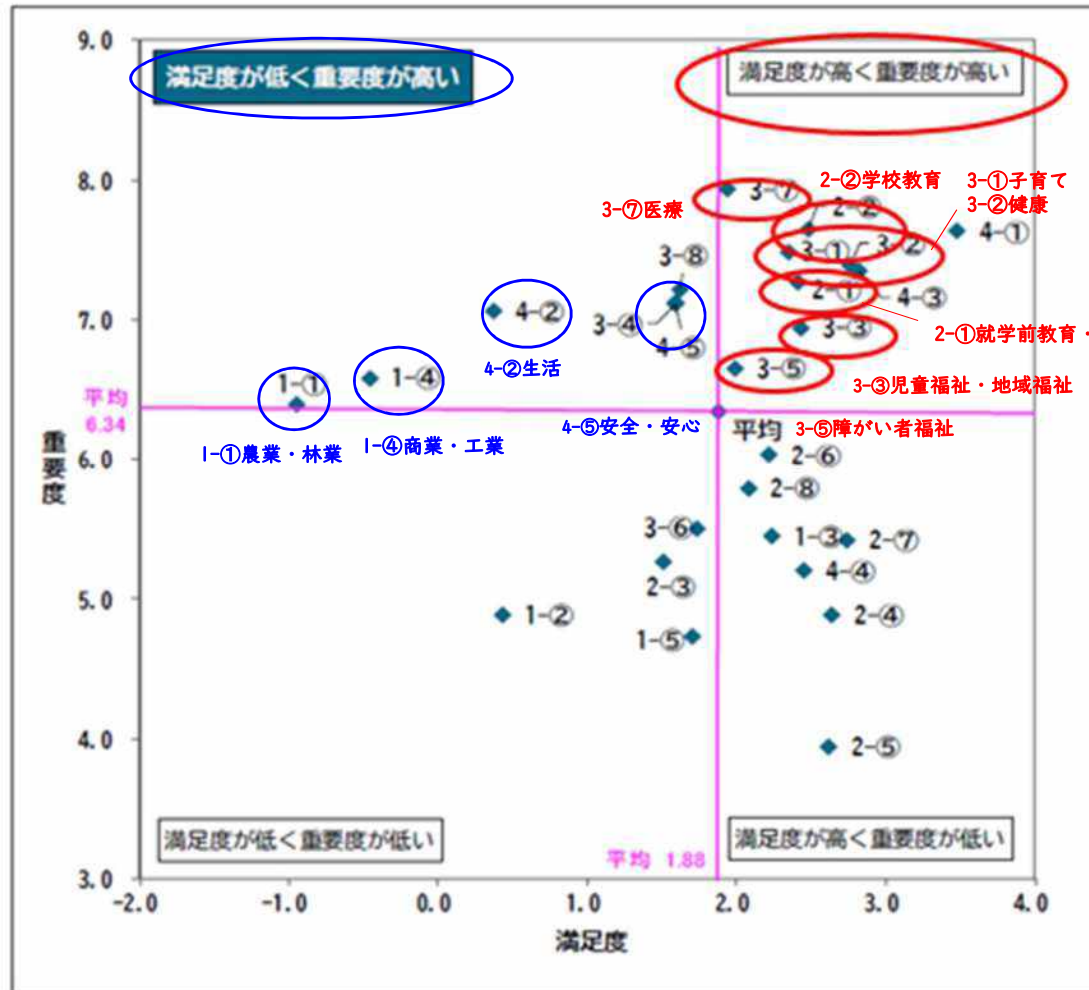
【前期基本計画に関する振り返り】

（前期基本計画の重点取組に係る評価結果：計34）…全体評価：69.7点、重点取組み評価：62.5点

評価	数	該当する重点取組み
A	3	都市計画区域の再編、活躍する市民への応援、公共施設の再配置と利活用及び適正管理
B	17	農産物の高付加価値化の促進、観光地としての魅力創造、地域クラブチームの育成と支援、自主防災組織の結成促進と支援 等
C	8	AI研究・人材育成拠点の整備、工業用水道の整備、重症化対策の充実、高瀬庁舎及び詫間町舎周辺の市街地エリアの開発 等
D	6	先端技術の導入促進、漁業活動への支援、詫間地区造船跡地におけるにぎわい創出、学校給食の充実 等

【市民からみた分野別の行政評価】

図表 10 満足度と重要度の相関（全体／優先度）



【傾向】

■「子育て、教育、健康福祉」分野の取組みは重要度・満足度ともに高め

■「産業（農林・商工業）、安全・安心、生活」は重要度は高いが満足度は低め

【備考】

- 「4-②生活」は、主に「社会インフラ、交通、住環境、都市整備」等の施策を指す。
- 「4-⑤安全・安心」は、主に「交通安全、防犯、消費者行政、バリアフリー化」等の施策を指す。

2. 後期基本計画の素案の概要について

(基本構想の継承)

「まちの将来像」「人口目標」「計画の体系」「ゾーニング」の継承（前期計画12p~17p）

One MITOYO~心つながる豊かさ実感都市~

①未来に向かって持続・発展するまち

②安全・安心な暮らしの中、豊かさを実感し、夢や希望をかなえることができるまち

⇒計画の体系：基本目標①~④とそれに付随する政策分野、基本方針①、②

(前期基本計画からの主な変更点)

■SDGs概念の施策への紐づけ

⇒SDGsの概念は市が目指す持続可能で快適なまちづくりに通じるものであることから、**17のゴールと各施策を紐づけて本計画とSDGsを一体的に推進**

■重点プロジェクトの見直し

⇒**前期基本計画の振り返りや社会情勢の変化に対応しつつ、今後重点的に取り組むテーマを明確化**

⇒重点プロジェクトに関連する取組を「**重点取組**」と位置づけ

■アウトプット指標（活動指標）からアウトカム指標（成果指標）へ

⇒「重点取組」は特に、取組により得られた成果を測るため、「受益者視点」であるアウトカム指標で設定

【重点プロジェクト】

次の4つを後期基本計画における「重点プロジェクト」に位置付ける

■ みとよでカナエル～育ちと学び～

子どもの健やかな育ちと市民の様々な学びの機会の創出により未来の可能性を担保する

■ みとよでハジメル～創造と可能性～

デジタル技術の活用により、様々な分野を超えて生活の質や利便性を向上させる

■ みとよでスマイル～持続と豊かさ～

ライフステージを通じて健康に過ごせて、快適で住みやすい持続可能なまちづくりを目指す

■ みとよでツナガル～集いとにぎわい～

市内外を問わずもっと三豊を知ってもらって、好きになってもらい、にぎわいの創出に繋げる

【重点プロジェクトのスキーム】

■ みとよでカナエル

■ みとよでハジメル

人を育み学べるまちであり、デジタル活用による利便性が高く可能性の広がるまち

人を呼ぶ

人の定着

■ みとよでスマイル

■ みとよでツナガル

健康で住みやすく持続可能なまちであり、人が支え、住みたくなるまち

後期基本計画における重点取組と効果の全体像

【重点プロジェクト】

【基本目標における重点的な取組】 30取組

【市民への影響】

【目指すまちの姿】

みとよでカナエル
～育ちと学び～

みとよでハジメル
～創造と可能性～

みとよでスマイル
～持続と豊かさ～

みとよでツナガル
～集いとにぎわい～

基本目標1【産業・交流】にぎわいが地域を元気にするまち
 ●農産物の高付加価値課・消費拡大の促進 ●工業用水道の整備
 ●新規就農の促進と支援 ●デジタル地域マネー・ポイントによる地域内経済の循環
 ●若者の地元就職支援 ●デジタル人材の育成とデジタル技術の活用支援
 ●企業立地支援の充実 ●観光施設の多様化・充実化による観光地化の推進

基本目標2【教育・文化・人権】知・体・心を育み、自分らしく暮らせるまち
 ●認定こども園の設置推進 ●小・中学校での教育内容の充実
 ●放課後改革による選択肢の充実

基本目標3【健康・福祉・医療】子どもが健やかに育ち、生涯笑顔で過ごせるまち
 ●こども家庭センターの設置・運営 ●生活困窮世帯の子どもの学習支援
 ●産前・産後の相談・支援 ●生活支援サービスの充実
 ●子育て支援拠点施設の充実 ●高齢者の健康寿命の延伸対策の推進
 ●特定保健指導による生活習慣の改善 ●市立病院の安定的な運営

基本目標4【暮らし】人と自然が守られる定住のまち
 ●自主防災組織の結成促進と支援 ●本庁舎及び詫間町舎周辺の市街地
 ●未耐震住宅への支援 ●エリアの開発
 ●カーボンニュートラルの促進 ●移住促進・移住後の支援
 ●誰もが安心して利用できる移手段の確保 ●関係人口創出・拡大

基本方針① 市民が可能性を切り開くまち
 ●データ連携基盤を活用した共助サービス実装によるWell-Beingの向上
 ●地域と時代に合ったコミュニティ活動の促進

基本方針② 効率的で健全な行財政運営
 ●公共施設の再配置
 ●デジタル・ガバメント（電子自治体）の推進

雇用の場の多様化

地域経済の活性化

地域価値の再認識

豊かな知識の会得

地域との
繋がり意識向上

子育てへの安心感

子どもの福祉向上

心身の健康維持

健康寿命の延伸

チャレンジ
精神の向上

生活環境への
安心感

生活の利便性向上

共助意識の醸成

地域行政への信頼

ウェル・ビーイングの向上、ミゼットプライドの醸成

One MITOYO
 ～心つながる豊かさ実感都市～

* 未来に向かって持続・発展するまち

* 安全・安心な暮らしの中、豊かさを実感し、夢や希望をかなえることができるまち